都市デザインの推進について（公共サインガイドライン、光のマスタープラン（MP））

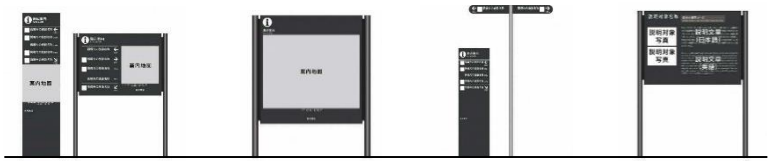
本市では、まちなか再生プロジェクトや駐車場配置の適正化など、昼も夜も歩いて楽しめる都市空間の創出に取り組んでいる。この取組の一環として、**R3年3月に、「公共サインガイドライン」及び「光のマスタープラン」の策定**し、来年度より、都市デザインの推進に向けて、具体的な事業実施に取組む。

公共サインガイドライン

概要

本市の公共サイン整備に関する方針や基本的なルールを定め、分かりやすいサインの整備を誘導することで、利便性・回遊性の向上や良好な景観形成を図るもの。

【例示】



A.案内誘導サイン　B.案内サイン　C.誘導サイン　D.説明サイン

関係機関・庁内意見調整の実施（R2年10月～R3年2月）

	主な意見		対応
①	対象となる公共サインについて	国県や民間団体等が設置する公共サインも対象か？	国県や民間団体等にも情報提供し、協力をお願いしている。市民にも広く周知する。
②	色彩について	のぼりや横断幕について、賑わいや注意喚起のため、高彩度の色彩を使用したい。	賑わいの演出に寄与しつつも、周辺景観との調和に配慮し、落ち着いた色彩を使用するよう文言の修正を行った。

光のマスタープラン（MP）

概要

本市の夜間景観の理念や方針を明らかにし、官民問わず、市民一人ひとりが意識をもって、中心市街地や地域拠点をはじめとした、魅力ある夜間景観の創出を図るもの

【例示】

熊本城周辺

公園・緑地

ガイドラインのイメージ（ケーススタディ）

パブリックコメント等の実施（R3年1～2月）

・景観審議会での報告
・パブリックコメント（約１ヶ月間）：意見件数：14件

	主な意見		対応
①	各種事業との連携について	公園の利活用などの各事業と連携し、普及啓発に努めてほしい	官民連携による実証実験“ライトスケープ・キャラバン”等を実施しながら推進する。
②	情報発信の手法について	情報発信については、写真だけでなく映像等も検討してほしい	映像も含め、市民に分かりやすい情報発信を実施する。
③	光による安全・安心の確保について	光による安心・安全の確保は、夜間景観の創出において、前提条件であり、もっと全体の中で触れるべき。	各章の表現について、適宜、追記・修正を行った。

令和３年（２０２１年）３月に策定

今後の都市デザインの取組みについて

2020年度　3月	2021年度	2022年度
公共サインガイドライン 光のMP策定		
	公共サイン：ガイドラインに基づく事業実施	
	夜間景観：ライトスケープ・キャラバン（官民連携による実証実験）の実施	
	景観計画全般：普及啓発・景観教育の実施、景観計画への反映	
	屋外広告物：屋外広告物ガイドライン策定	ガイドラインに基づく事業実施